

第2回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率（％）の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率（％）の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。
 （例：問5で「ぜひ購入したいと思う」と「機会があれば購入したいと思う」を合わせたものを《購入したいと思う》と表現している。）
- ・ また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

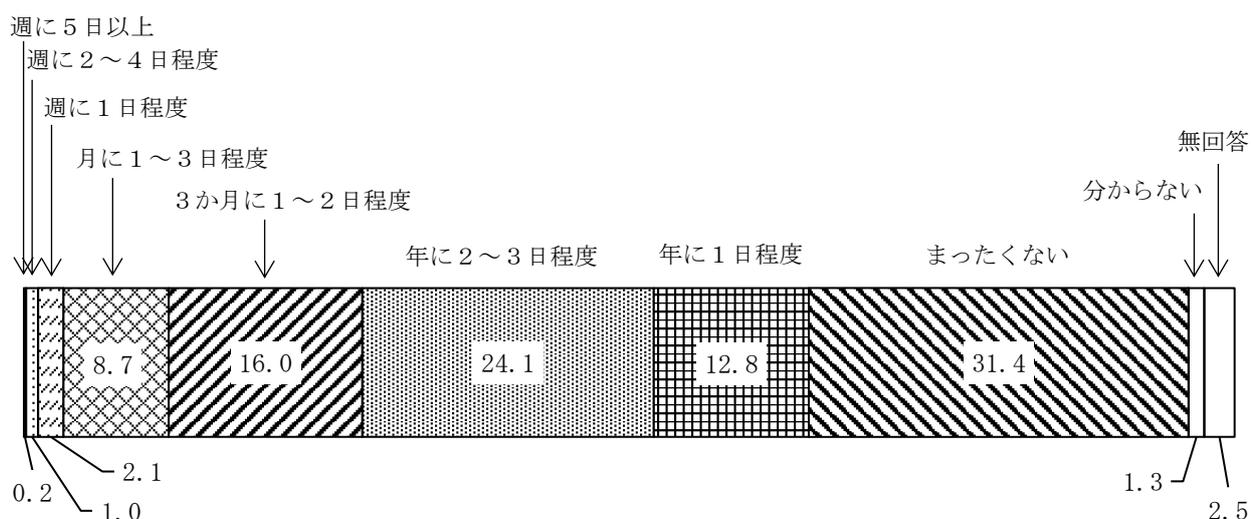
1 かながわの文化芸術（問1～問3）

県では、真にゆとりとうるおいを実感できる心豊かな県民生活と、個性豊かで活力に満ちた地域づくりを実現するため、県民の方に文化芸術に触れる様々な機会を提供し、あらゆる人の文化芸術活動が充実するよう取り組んでいます。今回、1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数などについて調査しました。

▼ 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（問1）

この1年間で文化芸術を鑑賞、または、文化芸術活動に参加した日数を尋ねたところ、「まったくない」が31.4%で最も多く、次いで「年に2～3日程度」が24.1%であった。[図表1]

図表1 1年間の文化芸術の鑑賞または文化芸術活動に参加した日数（n=1,698）（％）



2 伝統的工芸品（問4～問5）

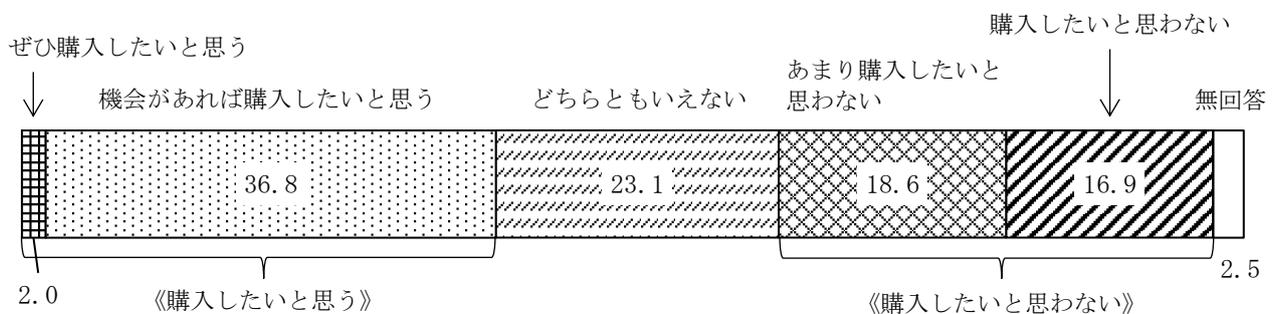
県では、長年本県で受け継がれてきた鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品の将来にわたる持続的な発展に向け、支援に取り組んでいます。今回、令和8年度に伝統的工芸品に関する国内最大級のイベントである KOUGEI EXPO in KANAGAWA を開催するにあたり、伝統的工芸品への購買意欲などについて調査しました。

▼伝統的工芸品への購買意欲（問5）

鎌倉彫、箱根寄木細工、小田原漆器などの伝統的工芸品を、今後、購入したいと思うか尋ねたところ、「ぜひ購入したいと思う」（2.0%）と「機会があれば購入したいと思う」（36.8%）を合わせた《購入したいと思う》は38.8%であった。

一方、「購入したいと思わない」（16.9%）と「あまり購入したいと思わない」（18.6%）を合わせた《購入したいと思わない》は35.5%であった。[図表2]

図表2 伝統的工芸品への購買意欲（n=1,698）（%）



3 2027年国際園芸博覧会（問6～問7）

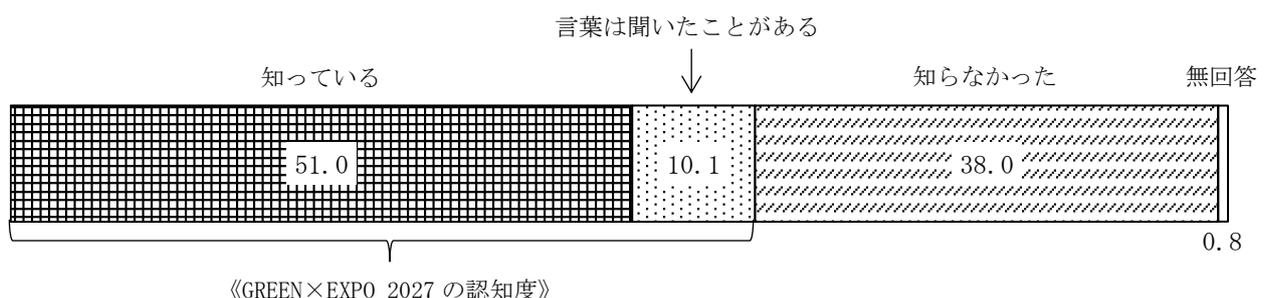
県では、一都三県初の万博である GREEN×EXPO 2027 の開催に向け、機運醸成に取り組んでいます。今回、GREEN×EXPO 2027 の認知度などについて調査しました。

▼GREEN×EXPO 2027の認知度（問6）

「2027年国際園芸博覧会（正式略称：GREEN×EXPO 2027）」が開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」（51.0%）と「言葉は聞いたことがある」（10.1%）を合わせた《GREEN×EXPO 2027の認知度》は61.1%であった。

一方、「知らなかった」が38.0%であった。[図表3]

図表3 GREEN×EXPO 2027の認知度（n=1,698）（%）



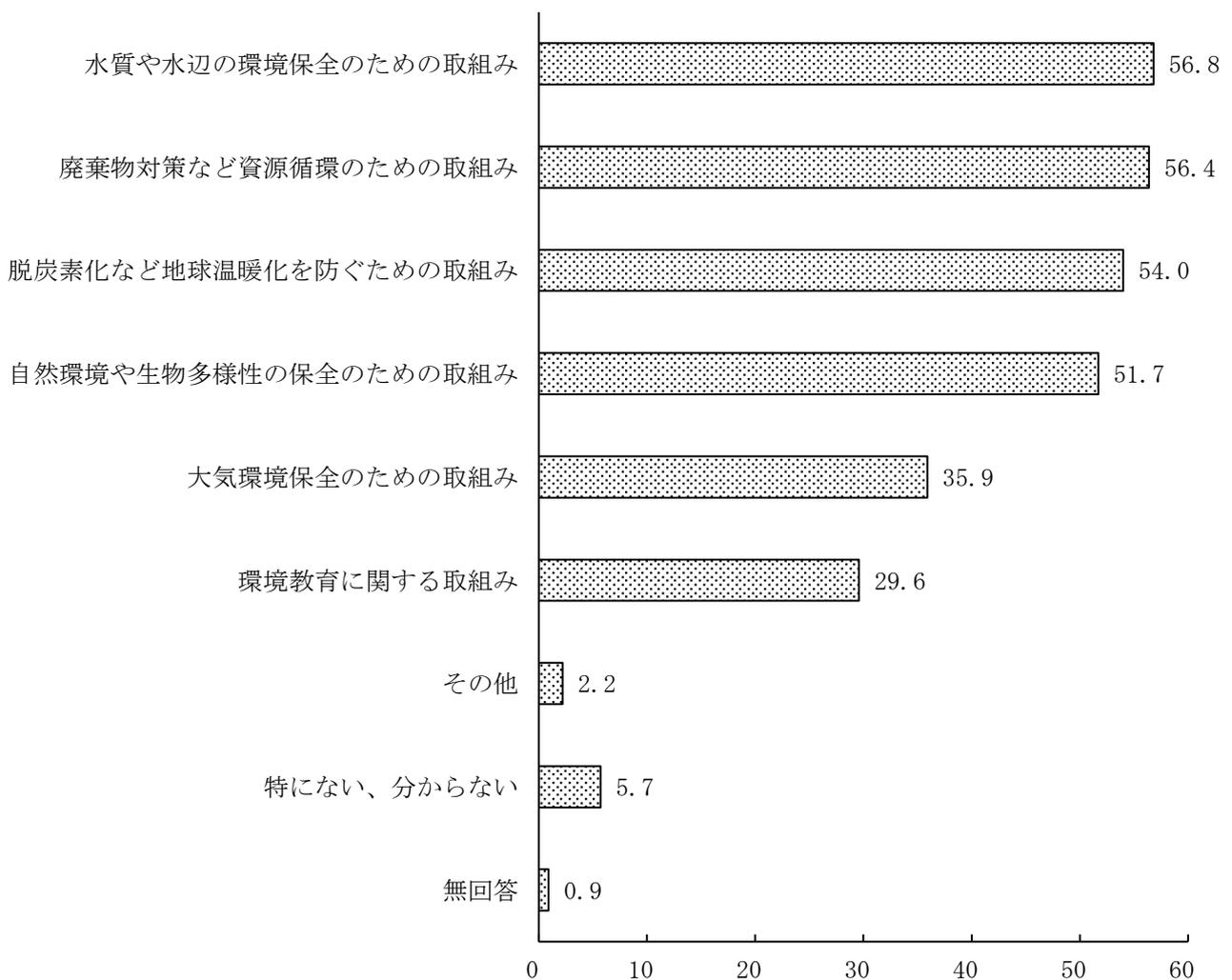
4 脱炭素・環境（問8～問11）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問8）

今後、県には環境に関するどのような取組みに対して、特に力を入れてほしいかを複数回答で尋ねたところ、「水質や水辺の環境保全のための取組み」が56.8%で最も多く、次いで「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が56.4%であった。〔図表4〕

図表4 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,698）（%）



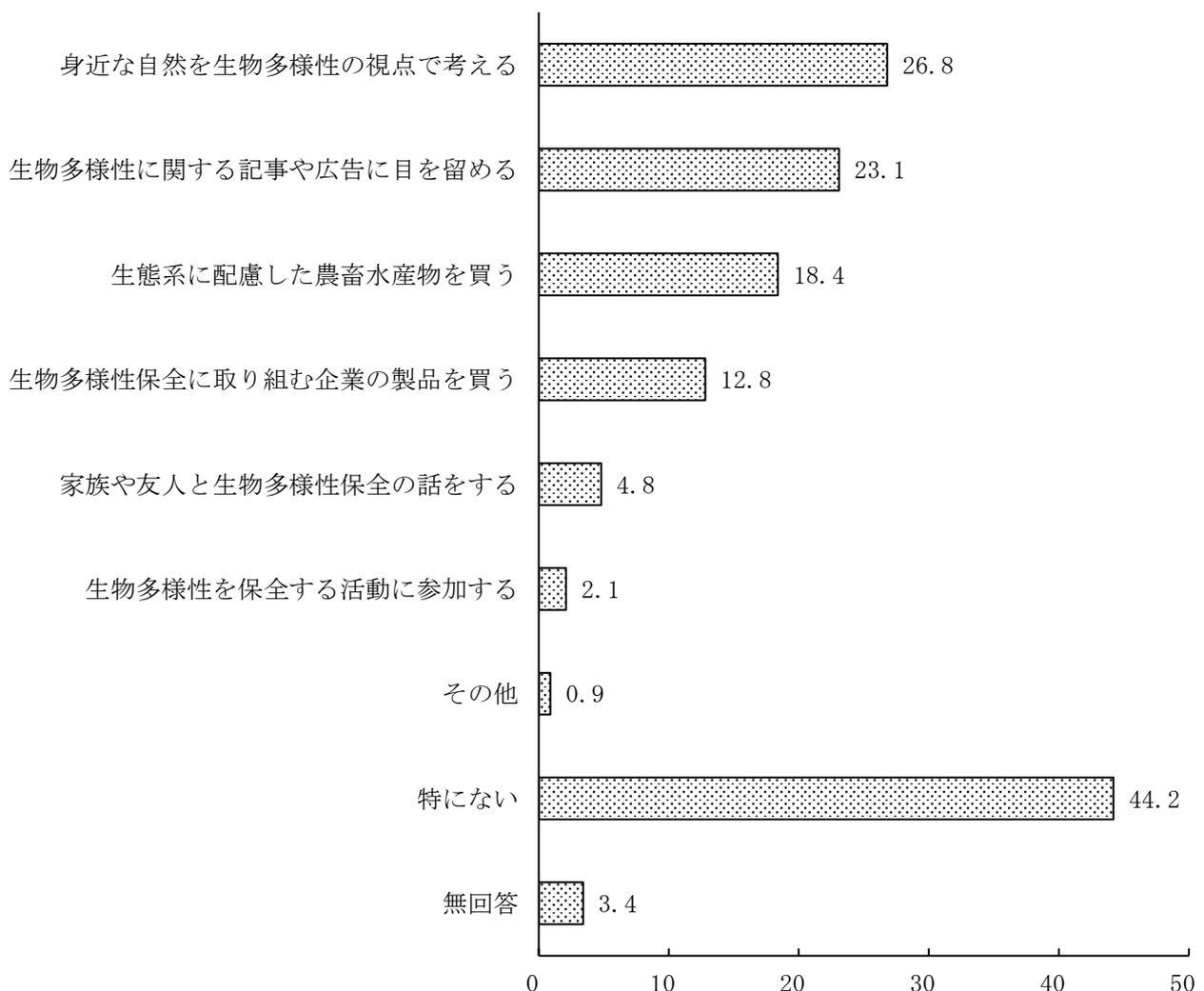
5 生物多様性（問 12～問 14）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 13）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 26.8%で最も多く、次いで「生物多様性に関する記事や広告に目を留める」が 23.1%であった。〔図表 5〕

図表 5 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
（複数回答）（n=1,698）（%）



6 「未病改善」の取組み（問 15～問 18）

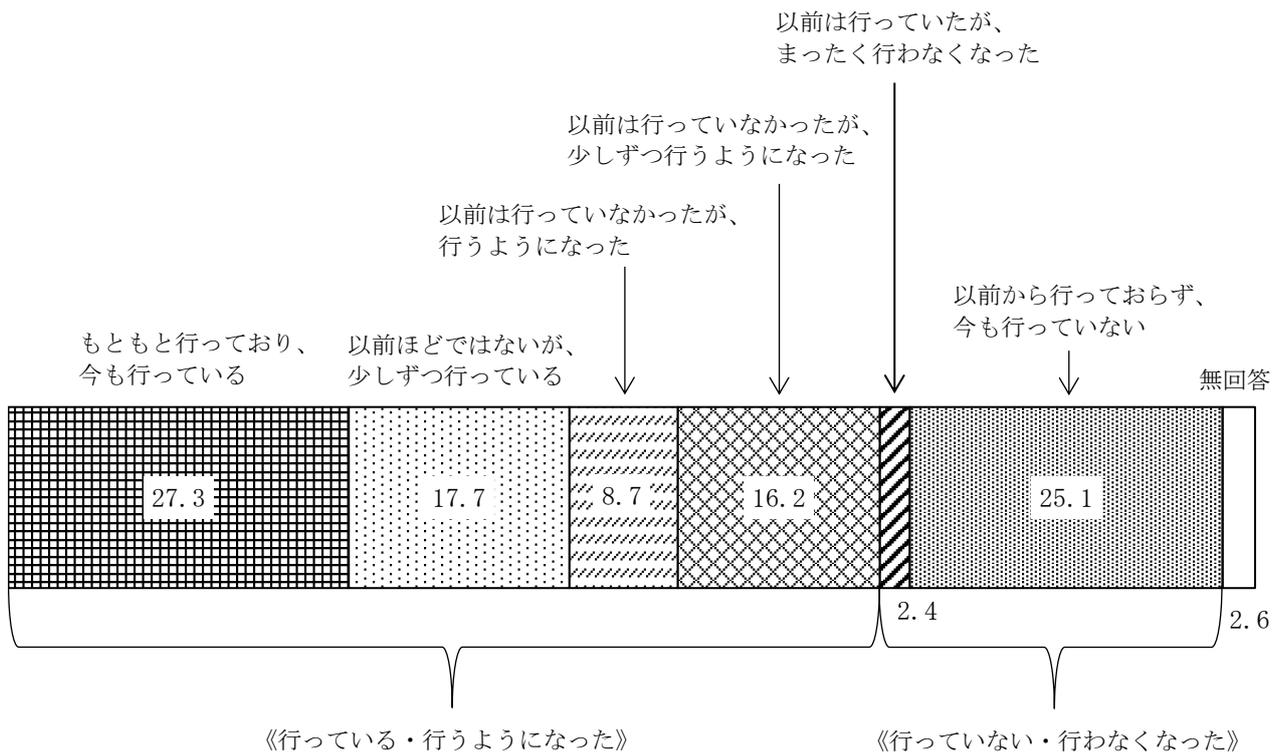
県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。「未病」とは、健康と病気を2つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。今回、過去1年間の「未病改善」の取組状況などについて調査しました。

▼過去1年間の「未病改善」の取組状況（問 16）

過去1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「もともと行っており、今も行っている」（27.3%）、「以前ほどではないが、少しずつ行っている」（17.7%）、「以前は行っていなかったが、行うようになった」（8.7%）、「以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった」（16.2%）、を合わせた《行っている・行うようになった》は69.8%であった。

一方、「以前から行っておらず、今も行っていない」（25.1%）と「以前は行っていたが、まったく行わなくなった」（2.4%）を合わせた《行っていない・行わなくなった》は27.6%であった。〔図表6〕

図表6 過去1年間の「未病改善」の取組状況（n=1,698）（%）



7 かながわ救急相談センター（#7119）（問 19）

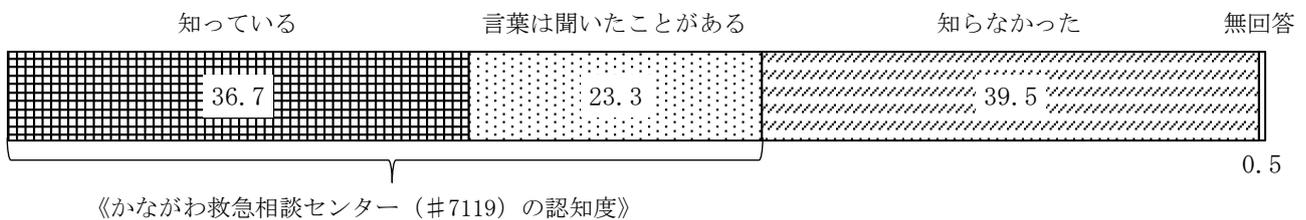
県では、急な病気やケガをしたときに、救急車を呼んだ方がいいのかなどで迷った際に、電話でアドバイスを受けることができる、かながわ救急相談センター（#7119）を運営し、救急車の適正利用や医療機関の適正受診を推進しています。今回、かながわ救急相談センター（#7119）の認知度について調査しました。

▼かながわ救急相談センター（#7119）の認知度（問 19）

かながわ救急相談センター（#7119）を知っているか尋ねたところ、「知っている」（36.7%）と「言葉は聞いたことがある」（23.3%）を合わせた《かながわ救急相談センター（#7119）の認知度》は60.0%であった。

一方、「知らなかった」が39.5%であった。〔図表 7〕

図表 7 かながわ救急相談センター（#7119）の認知度（n=1,698）（%）



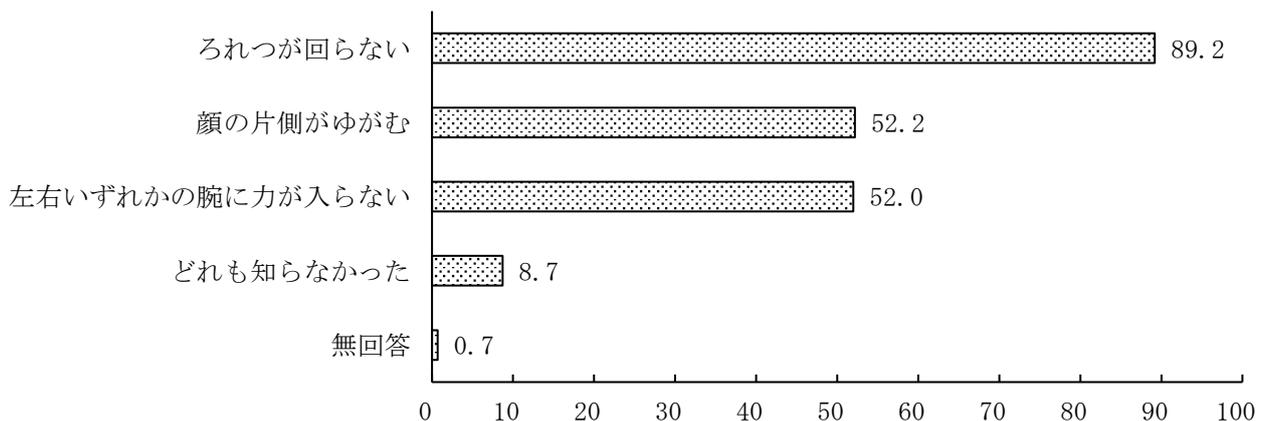
8 循環器病対策（問 20～問 22）

県では、循環器病（脳卒中や心疾患など）の未病改善や正しい知識の普及啓発、保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実などに取り組んでいます。今回、脳卒中の主な初期症状の認知度などについて調査しました。

▼脳卒中の主な初期症状の認知度（問 20）

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が89.2%で最も多く、次いで「顔の片側がゆがむ」が52.2%であった。〔図表 8〕

図表 8 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）（n=1,698）（%）



9 依存症に対する意識（問 23～問 24）

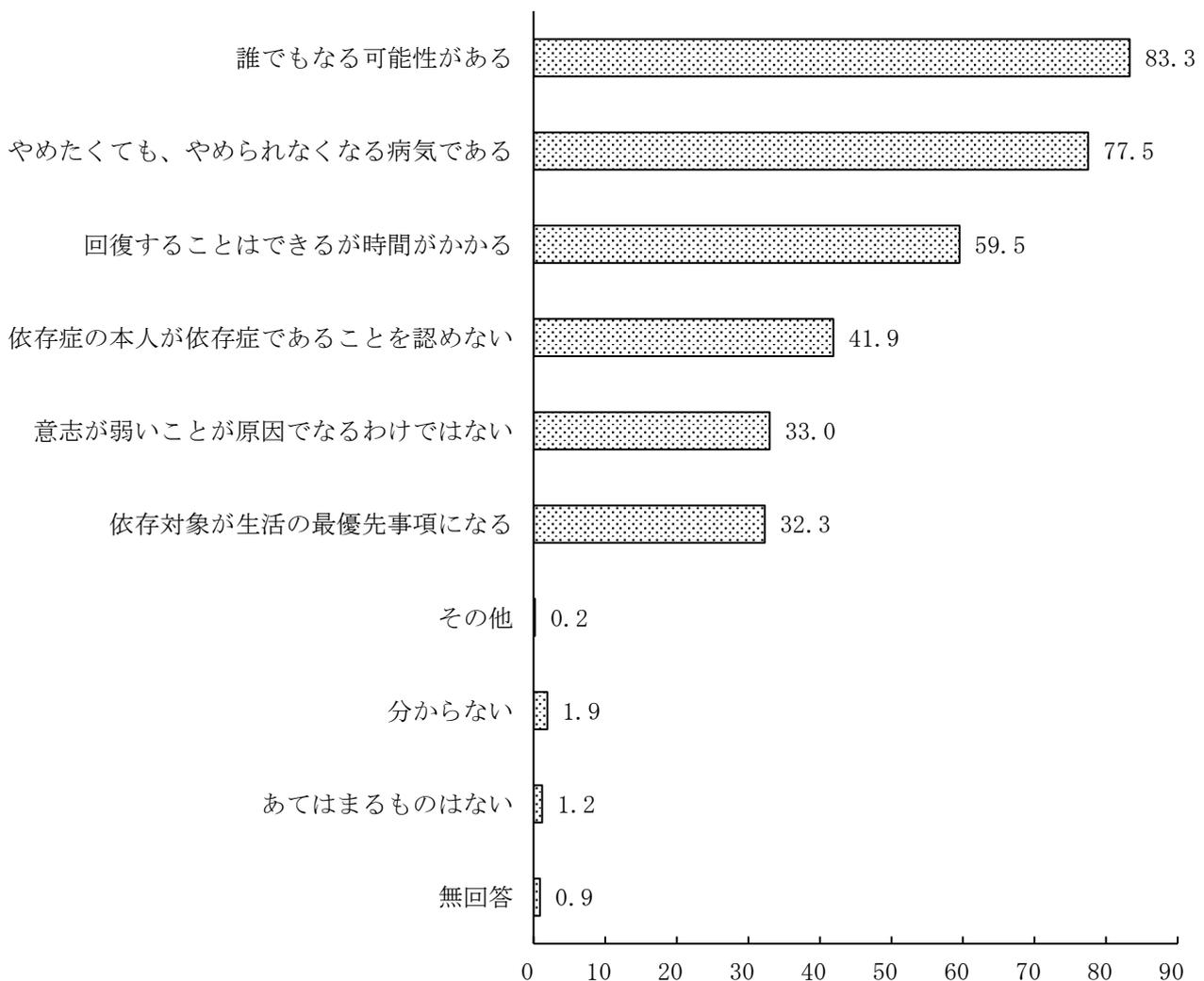
県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症に関する普及啓発、相談支援体制や治療、回復支援体制の強化、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症について、あてはまると思うことなどについて調査しました。

▼依存症について、あてはまると思うこと（問 23）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 83.3%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 77.5%であった。

[図表 9]

図表 9 依存症について、あてはまると思うこと（複数回答）（n=1,698）（%）



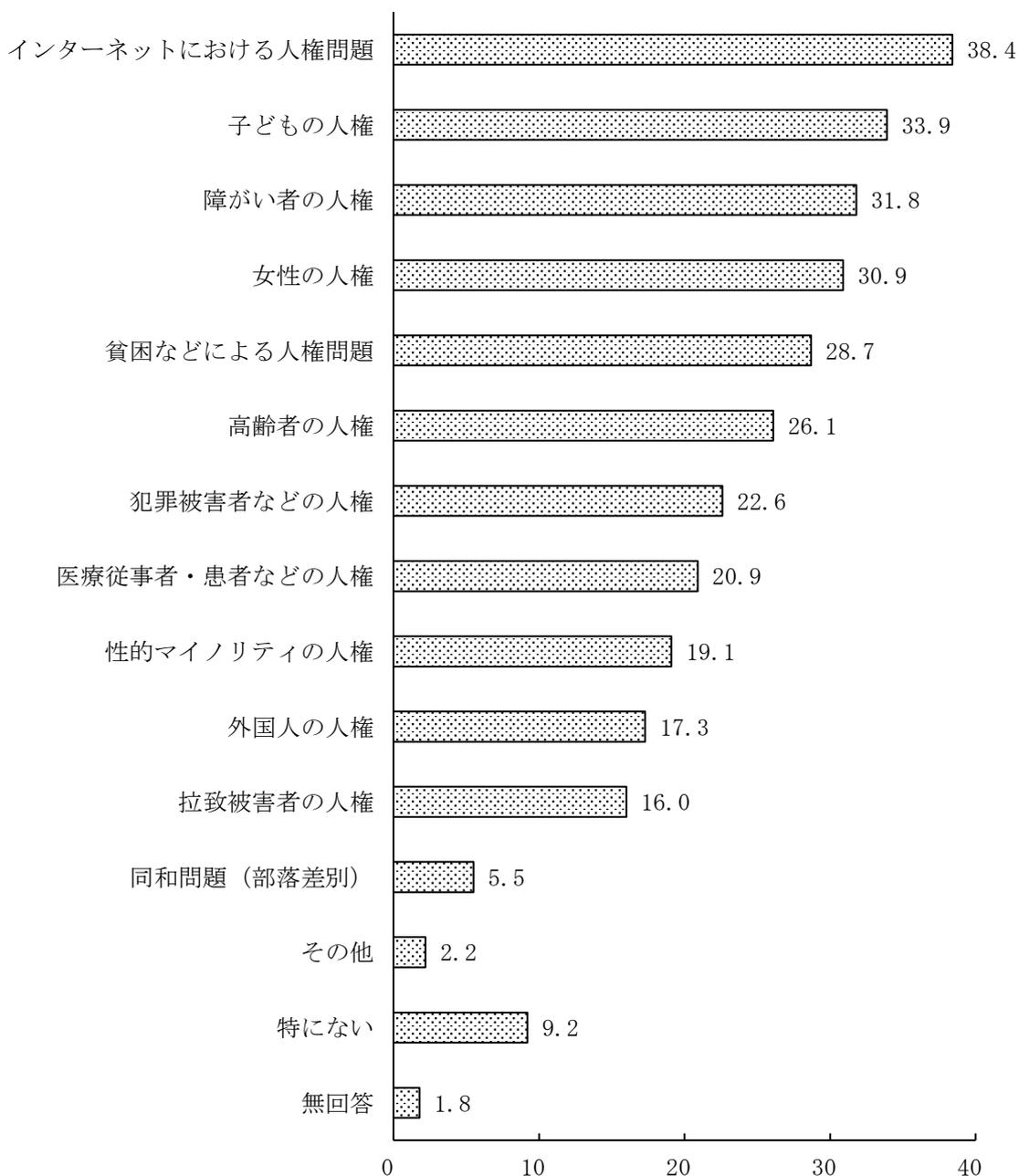
10 かながわの人権（問 25～問 27）

県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（問 26）

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が38.4%で最も多く、次いで「子どもの人権」が33.9%であった。[図表 10]

図表 10 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,698）（%）



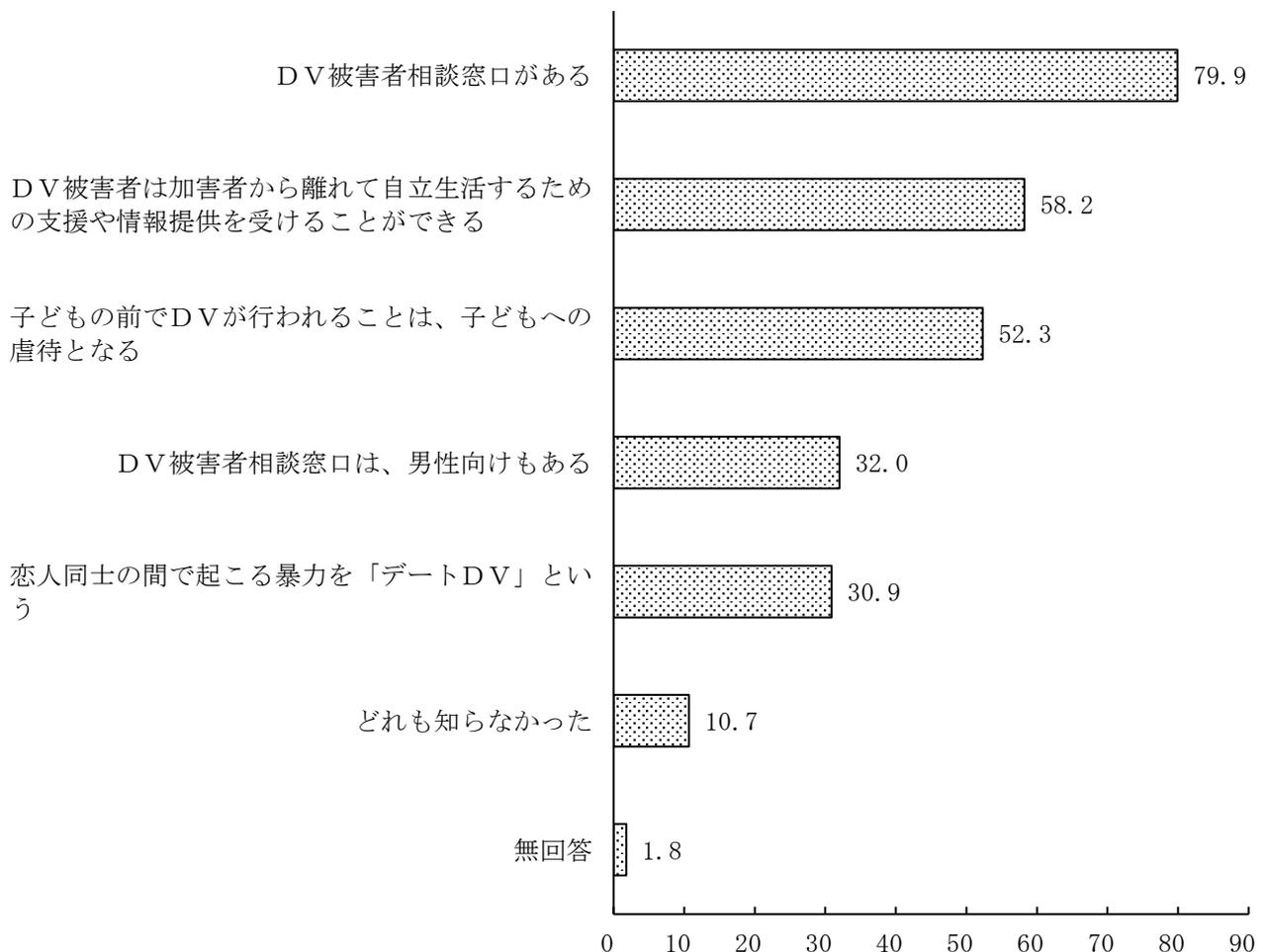
11 配偶者等からの暴力（問 28）

県では、「かながわ困難な問題を抱える女性等支援計画」に基づき、DV・ストーカー被害者への支援の充実に加え、DV防止の取組みの強化を図っています。今回、配偶者等からの暴力（DV）について知っていたことについて調査しました。

▼配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（問 28）

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が79.9%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が58.2%であった。[図表 11]

図表 11 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）（n=1,698）（%）



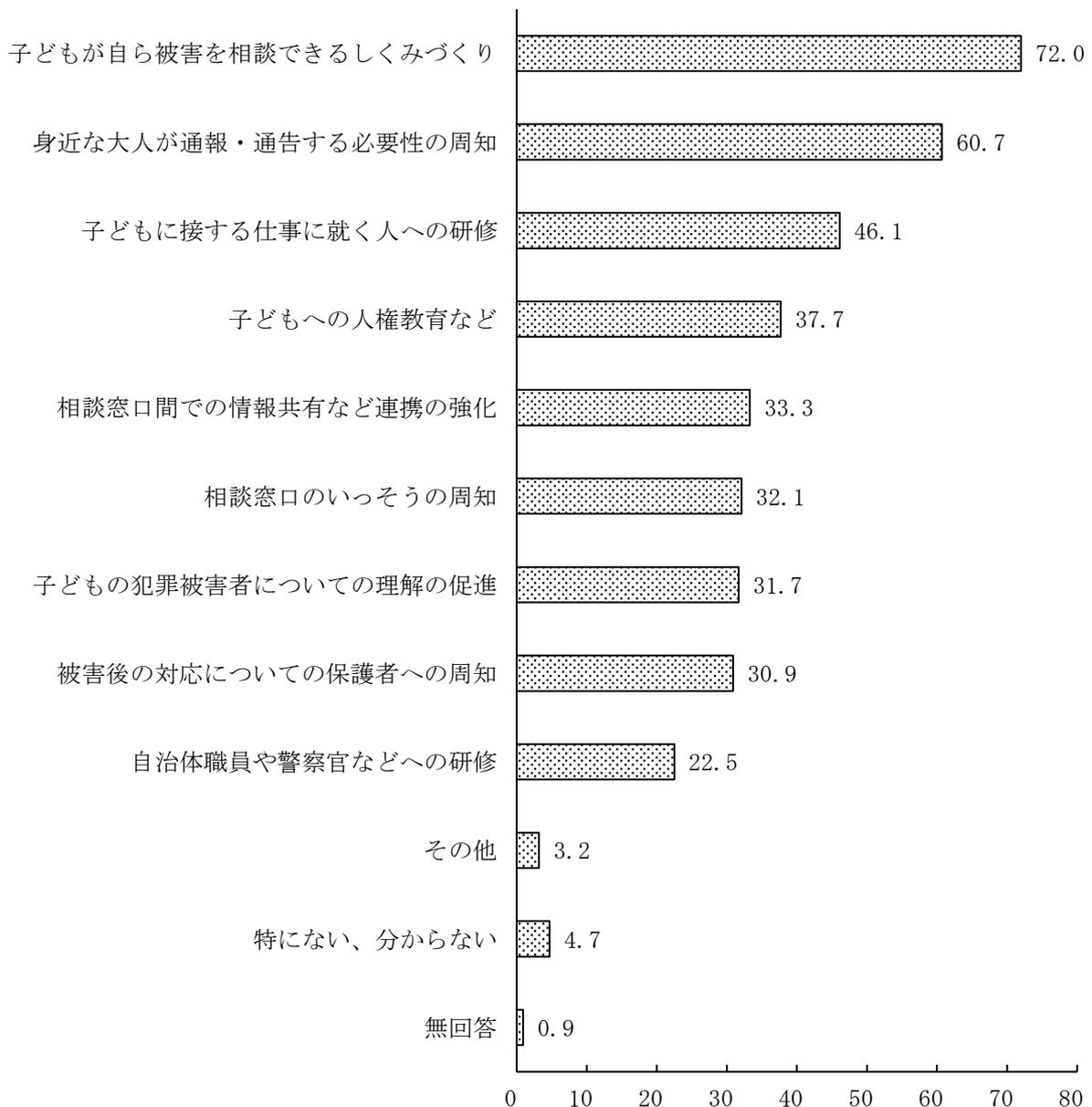
12 犯罪被害者等への支援（問 29～問 31）

県では、犯罪被害者等を温かく支える地域社会を目指して、支援・施策の充実に取り組んでいます。今回、犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みなどについて調査しました。

▼犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み（問 31）

犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組みについて複数回答で尋ねたところ、「子どもが自ら被害を相談できるしくみづくり」が 72.0%で最も多く、次いで「身近な大人が通報・通告する必要性の周知」が 60.7%であった。〔図表 12〕

図表 12 犯罪被害にあっている子どもを早期発見するために効果的だと思う取組み
（複数回答）（n=1,698）（%）



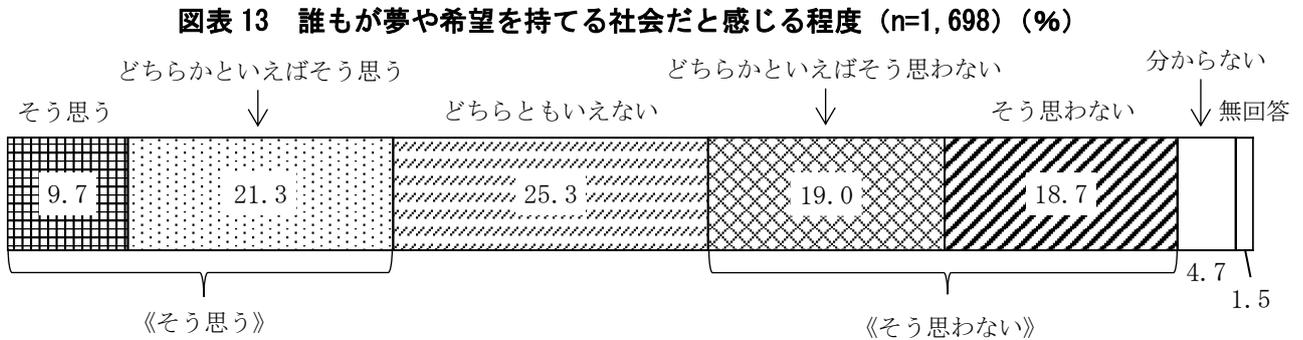
13 生活に不安や課題がある人への支援（問 32～問 34）

県では、多様な担い手と連携し、生きづらさ・くらしにくさを抱えながら、声を上げない・上げられない方に積極的にアプローチし、早期に相談や地域の支援につなげる取組みなどを推進し、誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくりに取り組んでいます。今回、誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度などについて調査しました。

▼誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（問 32）

私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」（9.7%）と「どちらかといえばそう思う」（21.3%）を合わせた《そう思う》は30.9%であった。

一方、「そう思わない」（18.7%）と「どちらかといえばそう思わない」（19.0%）を合わせた《そう思わない》は37.7%であった。[図表 13]



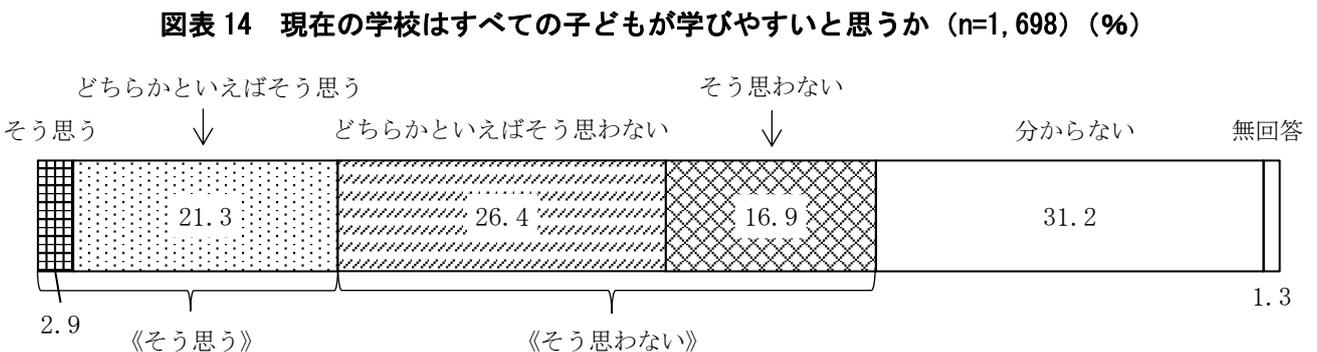
14 インクルーシブ教育（問 35～問 37）

県では、共生社会の実現に向け、すべての子どもが同じ場でともに学びともに育つことを目指して、インクルーシブ教育を推進し、すべての子どもにとって学びやすい学校づくりに取り組んでいます。今回、現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うかなどについて調査しました。

▼現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか（問 36）

現在の学校はすべての子どもが学びやすいと思うか尋ねたところ、「そう思う」（2.9%）と「どちらかといえばそう思う」（21.3%）を合わせた《そう思う》は24.3%であった。

一方、「そう思わない」（16.9%）と「どちらかといえばそう思わない」（26.4%）を合わせた《そう思わない》は43.3%であった。[図表 14]



15 かながわの広報（問 38～問 40）

県では、「県のたより」などの広報紙や県広報テレビ・ラジオ番組、ホームページ、ソーシャルメディアなどを通じて、様々な県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

▼県の広報の達成度（問 38）

県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（12.4%）と「どちらかといえば伝えている」（39.9%）を合わせた《伝えている》は52.3%であった。

一方、「伝えていない」（6.8%）と「どちらかといえば伝えていない」（15.0%）を合わせた《伝えていない》は21.7%であった。[図表 15]

図表 15 県の広報の達成度（n=1,698）（%）

